
言語研究センター共同研究

最新の中国語教材を利用したCALL教室の研究

加藤 宏 紀

インターネットを介して、時間と場所を選ばず新聞・ラジオ・テレビで提供される情報を入手できるようになった現代社会では、現在の中国の社会状況に関する中国語の文章を、即時性をもって授業の中に取り入れることは比較的容易である。

しかし半年間ないしは一年間を通して、体系的でかつ安定した授業を展開するためには、語彙の難易度が一定で、文法や重要表現などの学習ポイントが絞られていることが望ましい。

本年度は北京大学出版社の『新聞を読んで、中

国語を学ぶ』というシリーズの中級“報刊”教材を用いて研究を進めている。“報刊”というのは「新聞・雑誌などの刊行物」のことで、“報刊”教材とはそれらの文章を題材として編まれた教科書である。

本シリーズの中級教科書は2002年～2004年に発行された中国の新聞から経済・教育・余暇・情報・恋愛結婚・環境・交通・道徳・芸能・職業・都市生活・科学技術・家庭・公共概念などさまざま

なジャンルやテーマの記事をとりあげている。

各課では本文、新出語、重点表現および練習問題のほか、テーマの背景的知識や読書の豆知識を紹介し、効率的な学習を支援している。さらに三篇の記事を用意し、学習者の復習ないしは追加のトレーニング材料を提供している。

現在は、上記の内容把握に基づいて、研究グループ各メンバーの専門の視点からより細かな分析と考察を進めているところである。
